



南筑後外国語教育研究サークル

会長 柳川市立三橋中学校 校長 境 宏文

サークルHP⇒ <http://www.mcec.biz/>

## 2015年度 第1回 4月18日の学習会

13:30~16:00 サンコアにて

## 「指導方針をどう立てるか～新年度の授業づくり～」

平成27年度スタート！ この4月に異動された先生方も含め、みなさん忙しい年度始めの日々を過ごされている中、今年度の授業づくりに意欲を高めた先生方が集まり（参加者15名）、意見を交わしました。新規採用や初めて教壇に立つ講師の先生方も参加され、「勉強になりました！」と笑顔で会場を後にされる姿が印象的でした。若い先生方の考えを聞くことができ、今後、更にこのサークルが活気づいていくことを確信しました。

次回からは、実践発表等とあわせ、「基本的な授業の進め方」と題して ①新出文法編（5月）②本文編（6月）と基本的な授業展開について意見を交流します。また、夏季特別学習会（8月8日）では、東京都港区赤坂中学校よりスーパーティーチャー北原延晃先生をお招きして、授業テクニックの極意を学びます。子ども達の英語力の向上、私達の指導力の向上を目指して、互いに情報交換を深めて学び合ひましょう！

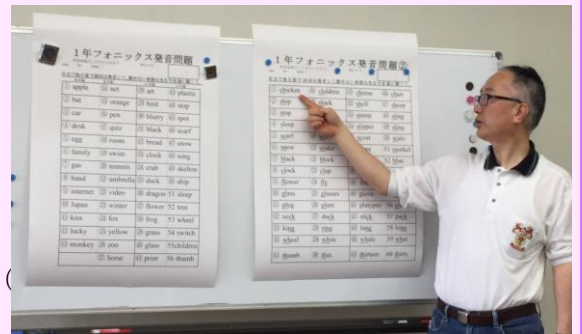
文責 田中・古川

## 実践報告 今村隆徳先生（柳南中）

## 「3年間のゴールとしての卒業文集作成」



今村隆徳先生が、三橋中学校で、3年間のゴールとして取り組まれた英語の文集と3年間の授業づくりを紹介してくださいました。4月のこの時期に、特に小学校の外国語活動で培ったコミュニケーションの素地を十分に発揮し、小中の接続を図った音声指導について、フォニックスを用いた授業の実際をワークショップ形式で体験しました。小学校では、どの程度のスピーキング能力を付けて中学校へ入学してきているのかということが、今村先生の経験談やワークショップを通して理解することが出来ました。



## ○ピクチャーカードを使ったフォニックスの指導

- ・リズムに乗せてアルファベットの音読みを習得（自立読み）
- ・はじめは絵だけを見て音声のみの指導から。そして、一文字読み、ブレンド読み、3文字読みとスモールステップを繰り返しながら、音から文字へと自然につなげていく。（確認テストを実施）
- ・ピクチャーカード等はコミュニケーションの題材としても活用（

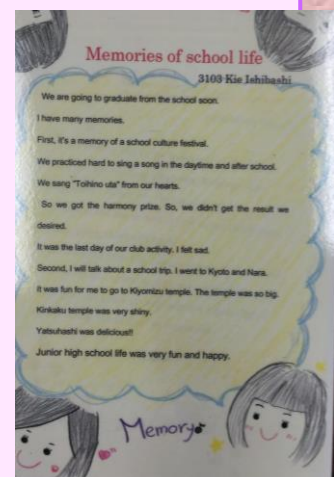
## ○2年生最後の英作文をつくらう

- ・教科書にある三つの My Project から選択させて作成
  - ・作成終了後には、必ずスピーチ大会を実施
- 異なる題材のスピーチ→発表する生徒のスピーチに関心もち、意欲的に聞こうとする。

## ○卒業に向けて

- ・「卒業への思い」や「お世話になった人への手紙」など、いくつかのタイトルから生徒自身に選択させて英作文。修正後、パソコンで清書を行う。内容に関する絵を手描きにする事で、個性あふれる温かな作品となる。

今村先生は、生徒自身に「自己選択」「自己決定」をさせることで、自己存在感を味わわせ、自分と友達の作品を比較することで他のよさを知ることとなり、「人間関係調整力」にもつながる指導をされています。つまり、生徒指導の3つの機能を活かしながら、よりよい授業づくりに努められているのです。



## 1年生担当、2年生担当、3年生担当 とグループに分かれて協議

今年度の始めの一週間をどのように進めていったのかという話題から、家庭学習の方法、帯学習の方法、CAN-DO リストの活用等について、多くの意見を交わし、共に授業の悩みを出し合うことが出来ました。

新採の先生や講師の先生の参加もあり、若手教師の悩みから中堅またはベテラン教員が、今後どのように若い先生方や生徒たちを指導すべきか、様々な考えを共有することが出来ました。

- 英語授業のオリエンテーションの在り方
- 生徒への約束事項（授業のきまりの提示）
- 生徒への評価規準提示
- 生徒の目標設定（英語の授業を通して目指すこと） などのアイディアも・・・

今村先生の実践にもつながることですが、何事も積み上げが大事！

1年から4技能をどのように身に付けさせるか・・・ So, why don't we use 'Can Do List'?



## ～臨時特別学習会（英語教師のためのプレゼン講座）報告～

山下芳仁先生のご紹介で、英語プレゼンの達人が東京からはるばる柳川へ！

2015年5月5日（祝） 柳川市立柳南中学校 コンピュータールームにて

### 愛場吉子先生

アルクの企業研修英語講師  
Calvin Klein NY 本社のライセンスビジネス事業部に勤務。帰国後、ビジネス経験と英語教授のスキルを活かし、企業向けビジネス英語（英語でのプレゼン力）を指導。



### ○若いうちに音を入れる。入れた音を繰り返し出す。

- ・小・中学生のうちに英語を聞かせ、マネして言う。歌手やスティーブジョブズといった有名なプレゼンターのマネをするうちに自分の英語になっていく。
- ・学習するとは、「自分で考えること」「自分で気付くこと」。教授とは、その機会をつくってあげること。
- ・授業で音読をさせるとき、短く切りすぎない。文章の中には、function word（機能語）と content word（内容語）があり、ネイティブの発話には function word はほとんど聞こえない。つまり、そのような読み方をトレーニングすることによって、速読力がつく（内容を理解する上で必要な語彙を選択しながら聴く）。企業で速読力は必須！

### ○プレゼンの機会をつくる。よりよいプレゼンのためにしっかり練習。

- ・1分間のスピーチでもよい。とにかく、人前に出て、自分の考えを伝える機会をつくってあげること。
- ・原稿を読みながらでは意味がない。暗記もしくはチラ見して言えるまで、練習させる。授業中に練習時間を作らなくとも、スピーチ、プレゼンの日を指示しておき、家庭学習等で練習に取り組みせる。
- ・よいスピーチ、プレゼンは見せる。生徒に「こうありたい！」という姿を示しておくことは大切。

### ○よりよいプレゼンとは = よりよい授業

① オーディエンスは誰か ② 達成したい目標は何か（プレゼンで伝えたいことは？） ③ 目的を達成させるために最も効果的なことは何か・・・よりよいプレゼンに必要な3つのこと。また、飽きさせない工夫（10分刻みの展開）、わかりやすさ（今、何をしているのか理解できる）も大切。・・・これは、授業作りでも同じことですね。

### ～プレゼンの構成～

- 「Introduction（序章）」 ・前置き ・トピックセンテンス（プレゼンの目的） ・詳細（アウトラインの説明）
- 「Main Body（本論）」 ・大きくは3つを提示
- 「Conclusion（結論）」 ・本論で伝えた内容を要約 ・オーディエンスに期待するアクション ・お礼、Q & A